

2023年度第3回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

1 日 時：2023年6月5日（月） 午後8時00分から9時50分

2 方 法：ZOOMアプリを媒介にしての遠隔会議

3 議決権のある理事：9名

出席者：座間直壯、雨谷逸枝、清田義昭、小池信彦、齊藤誠一、田中ヒロ、中川恭一、堀 渡

欠席者：保坂一房

事務局員の参加者：なし

(1) 第1号議案 会員の動向について【報告】

・2023年6月5日（本日）現在

正会員：個人80名 2団体 賛助会員：個人29名 2団体 計：個人109名 4団体
（合計113名・団体） （賛助会員1名退会）

(2) 第2号議案 2023年度通常総会の結果およびその後の届出事務の進捗等について

【報告・討議】

・2023年度通常総会 5月21日（日）午後2時～午後3時

本人出席 21名、書面表決 37名 計58（定足数41）

司会：中川 議長：座間 書記：雨谷 議事録署名人：江森隆子、鬼倉正敏

・議案書で提案した議案は書面表決票に反対や保留の票はなく、すべて賛成で可決された。
書かれてきた意見では、直接議案に関するものはなく、東京都図書館協会へ補助金申請
をしてはどうかという提案などがあつた。

・当日の内容や見えてきた課題について

▷3年ぶりに、会員を招集し、記念講演会もセットする総会を、会場を借りて開催することができた。主催側としては、前年度に行った事業を報告し新年度の計画を提案する、リアルに年度の区切りをつけられる手ごたえがあつた。出席された会員からはその場で反応をもらえた。複数の人に、その場で『通信』に記事執筆を依頼できた。

▷このままコロナ感染症が沈静化し、書面表決票による事前の意志集約という方法は続けながら、会員の総会出席者を増やしていければいい。当面は会員への文書での丁寧な報告を心掛けていきたい。

▷今回は、事前には総会参加者がわからなかつた。来年度には、表決票に総会参加・不参加の記入欄を設けたい。

▷総会前にZ o o mで意見交換会を行ったのはよかつたのではないか。来年度に行う時は、各議案説明の時間配分も事前に決めておきたい。

・総会後の届け出事務の進捗状況

5/29・30 武蔵府中税務署確定申告、法人市民税（調布市）法人都民税（東京都）申告

および納付

5/31 東京法務局府中支局 役員変更登記申請書提出（代表理事 座間直壯 6/7 登記完了予定）

・今後の予定

6/7 会員向け総会報告送付

6/12 東京都へ事業報告届出

6月中 東京都へ役員変更届提出

※理事、監事に変更になったので「パンフレット」の新版を作る予定。

（3）第3号議案 総会記念講演会の結果について【報告・討議】

(1) 国立国会図書館電子情報部の佐藤菜緒恵氏を講師に、「国立国会図書館のデジタル化資料送信サービス」と題して実施した。

・参加者は22名。講演会だけに参加された会員が2名。非会員の参加者はなし。

・昨年5月から、国立国会図書館蔵書の既にデジタル化されたデータのうち、著作権が切れていない資料で絶版等により入手困難なものは、希望する個人のパソコンへも配信する事業が始まった。これまで、この範囲の公開の仕方は、事前登録した公共・大学図書館への配信で、利用は図書館の館内に限られていた。今回の変更は、利用の利便性からは大きな前進である。

・講演会では、新たに始まった個人向け送信サービスだけでなく、同館全体の事業概要、同館が進める資料デジタル化の現状と将来、そして本題であるデジタル化資料送信サービスの概要についてが語られた。詳細な資料を用意していただき、説明も大変分かりやすいものだった。国会図書館が現在行っており周知したいだろうことが良くまとまっている。この配布資料を多摩デポHPなどで公開できないだろうか？→ 問い合わせてみる。

・古い出版物の重要性に注目し、図書館資料の保存と長期利用を目指してきた多摩デポにとっても参考になる内容だった。当日の参加者は、それぞれの知識や関心に基づいて聞いていかれたのではないかと。

・会場を使える時間の認識に不足があり、講演後に参加者から質問できる時間を十分に確保できなかった。反省点である。

・質疑がほとんどできなかったことにも関わるが、多摩デポとして講演をどう聞き、今後はどう生かすかは宿題になった。企画を絞り再度講演してもらうこともあるのではないかと。

・これだけ一気にデジタル化資料が公開され始めているが、どのように利用されているか、反響についてももっと聞きたかった。

・今後は一層デジタル化を進めていくということであるが、国内出版物の10%近くという国会図書館の収集漏れ対策については、どのように考えているのかも知りたい。

(2) 参加者から（会場、および事後にメールで集めた）アンケート結果の報告

・8名からアンケートが提出された。わかりやすい資料と講演だとの回答が多かった。

・質問時間が短かったのが残念という意見があった。

(4) 第4号議案 府中市の蔵書データへの ISBN 遡及入力事業について【報告・討議】

- ・日本の出版界に ISBN コードは 1980 年代初めに導入されたが、1990 年代までは商業出版物で付与されない図書も多く、また ISBN が付与されていても、図書館蔵書の目録には記載されていない場合もあった。府中市立図書館の蔵書のうち、1980 年代から 90 年初め頃に発行された図書で、目録データに ISBN 未記載のものを抽出し、今から ISBN が付与できるものはないかを (株) カーリルと共同で調査研究している。
- ・手順としては、たましん歴史資料室の蔵書データに ISBN を付与した経験を元に、(株) カーリルが府中市の蔵書目録の記載内容を、全国の図書館目録のビッグデータにぶつけて、機械的に ISBN を推定する。その後、推定された ISBN が妥当なものか判断できるかを、理事、事務局員を中心に一件一件検証している。妥当な ISBN と判断できるものは府中市にその情報を渡す。検証の結果、判断が難しいもの・誤った書誌に結びついたものは、それを (株) カーリルに返し、今後の機械的推定の精度向上に役立てる。
- ・今後、多摩デポ会員に協力を求めて作業が大量に進められるように、作業マニュアルを整備していく。この作業により、目録DBに新たに ISBN が付与できるケースが多くある。蔵書目録の整備作業は、他の図書館にも広げていけるのではないかと。
- ・調査した中では、多巻もの・シリーズものの ISBN をどう扱うかが課題に上がっている。1987 年版の日本目録規則ではまとめて付与する案も出ていたが、物理的な問題を考えると単冊での扱いのほうがやり易いということで、あまり普及しなかった。
- ・ISBN をデータセットとして抽出し、(株) カーリルに提供できる仕組みがあれば有効だが、館によっては、その仕組みを新たに開発する必要がある。

(5) 第5号議案 新年度の当面の事業展開について【報告・討議】

(1) 多摩デポ講座

- ・第三号議案で具体的に提案した「都立中央図書館の書庫見学および保存計画を聞く」見学会は、年度前半（できれば7月中旬くらいまで）に実施したい。2020年3月に企画し、参加者募集まで行ったが、直前に新型コロナウイルス感染症が発生し、図書館から受入れ中止の連絡が来て、中断したままになっていた事業の再企画。
- ・この見学会は「都立と市町村が連携して共同保存を実現」という本体事業にも関わることなので、多摩地域の図書館長や職員等の参加も呼びかけていきたい。

(2) 多摩デポ実践講座

- ・実践講座としての実施を考えていた4回目の企画（TAMALAS 一括検処理システムの普及）が、多摩地域図書館大会のサービス研究会部門でとりあげられることになった。図書館大会は市民にも参加を呼びかける行事なので、実践講座の拡大版とするかどうかには検討が必要。2時間を使える企画にできるなら、この間多摩デポが果たしてきた役割の説明などを入れることも考えられる。

- ・ 5 回目の実践講座は吉本氏の講演を考えているが、多摩地域ライブラリアン講座で講義してもらうこともあるかもしれないので、調整が必要か。

(3) 第 1 回多摩地域ライブラリアン講座

- ・ 実施することが総会で承認されたので、準備を具体的に進めたい。できるだけ多摩地域の若い世代の職員とコミュニケーションをとることを大きな目的にしたい。
- ・ 講座内容等の検討会の設置／実施体制の確定／講師へのコンテンツ作成の依頼
- ・ 今後のスケジュール／この講座の周知方法
- ・ 館長会との関係整理

「多摩地域ライブラリアン講座」理事会資料

2023・6・5

1 多摩地域ライブラリアン講座のスケジュール（案）

2 実施検討会の設置等

- ・ 検討会を設置して進めるのが良い。

6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施検討会の設置 ・ 実施体制（事務担当・クラウド等）の確定 ・ 講座内容（カリキュラム）の確定 ・ 講師依頼 ・ 周知方法の検討
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者の募集開始（締め切り 7 月 31 日） ・ オンデマンド・コンテンツの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・・・講師への説明・作成バックアップ
8 月～10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンデマンド・コンテンツの視聴開始（10 月末まで） ・ オンデマンド講座の課題提出期限：10 月 15 日 ・ ワークショップの説明会（Zoom オンライン） <ul style="list-style-type: none"> ・・・8 月の前半で受講者全員が揃う日とする ・ ワークショップの実施（2 回程度）
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン講座二日間「11 月〇〇日（○）、〇〇日（○）」 ・ 修了レポートに対する説明 ・ ワークショップの実施（希望があれば）
1 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修了レポートの提出期限
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修了レポートの評価（コメント付与） ・ 修了証の交付 ・ ホームページ掲載のレポート選定 <ul style="list-style-type: none"> ・・・選定された受講者によるレポートのブラッシュアップ
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページに公開

- (1) メンバーの確定。近々、Zoom で打合せ会を開き、骨子を決める
齊藤、中川(多摩デポ実践講座担当)、堀(事務局長)、清田、小池
- (2) 事務担当依頼・クラウドの設置

3 館長会との関係の整理

PR 程度はしてもらえないのではないか。

(6) 第6号議案 館長協議会との連携について【報告・討議】

- ・総会の第三号議案の冒頭で、多摩地域の館長会や図書館職員との関係を再度深め、リアルな共同保存の実現に向けた連携を意識的に作っていくという課題を示し、承認された。
- ・早速、例年どおり館長会三役や幹事会に挨拶に伺い、この間の多摩デポの取り組みを紹介し、全国で県単位での共同保存が進んでいることを伝え、東京都や多摩地域での進展に向けた意見交換したい。コロナ禍の終息が見えてきた機会を生かしていきたい。
- ・6月22日の館長会幹事会には、新事業であるライブラリアン講座のおおよその構想をお話しして、協力を求められるようにしたい。
(館長会の日程：6月22日幹事会、7月12日例会、9月27日幹事会、10月18日例会)
- ・都立中央図書館の書庫見学会には参加をお誘いし、できれば協力して都立への要請を図りたい。

(7) 情報交換その他

- ・「里親探し」には、町田市立図書館から郷土資料の高価本の提供の申し出があり、未所蔵館に向けて募集をかけている。まもなく応募の締切日となる。
- ・事務局員の鬼倉正敏が執筆し『多摩デポ通信』第62号に掲載した、『各都道府県立図書館の県内市町村立図書館への図書資料の保存の取組—各館ホームページから全国の現状を探る—』が、日本図書館協会の資料保存委員会の機関紙『ネットワーク資料保存』第131号に転載された。これは(協会の会員である)全国の図書館に送られるので、読んでの反響や、書かれた県立図書館のリアクションも期待できるだろう。
- ・『多摩デポ通信』第64号は、7月中には発行したい。総会と総会記念講演会の報告及び参加者からの感想、「多摩デポ講座—都立中央図書館見学会」の案内などを内容にする。内容が固まれば、理事には事前にメーリングリストでお伝えする。

【多摩デポ関係記事】

- ・なし

【共同保存図書館関連論文】

- ・上記の『ネットワーク資料保存』の掲載論文のことを記録

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 定例会 2023年7月25日(火) 午後8時より、(Zoom会議)
- ★ 事務局会議 第6回 2023年8月3日(金) 午後8時より、(Zoom会議)
- ★ 次回理事会 第4回理事会 2023年8月7日(月) 午後8時より、(Zoom会議)

(8) 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、齊藤誠一理事、中川恭一理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2023年6月5日

議長

議事録署名人

議事録署名人